

初級レベルの専門日本語研修のための オーラルテスト評価基準開発

- 外交官・公務員日本語研修での試み -

熊野七絵・石井容子・亀井元子・田中哲哉・岩澤和宏・栗原幸則

〔キーワード〕オーラルテスト、評価基準、専門日本語、初級

〔要旨〕

国際交流基金関西国際センターで実施されている外交官・公務員日本語研修では、職務に寄与する口頭運用能力の習得に重点が置かれており、その評価のため外交官・公務員研修独自のオーラルテスト開発が進められてきた。本稿では、評価の妥当性を検証すべく行った平成14年度の最終オーラルテストの分析結果から、初級レベルの外交官・公務員日本語研修で目指すべき日本語運用能力や評価のあり方について考察する。

分析の結果、初級レベルであっても、基本的な文型に専門性の高い語彙を入れ込み、結束性ある段落を構成することで、ある程度まとまった専門的な内容を伝えられること、会話の開始や展開のキーとなる表現の使用が職務上の場面に対応するために重要な要素であることがわかった。あわせてこの分析結果をもとに行った評価基準改訂について報告する。

1. はじめに

国際交流基金関西国際センターで実施されている外交官日本語研修・公務員日本語研修（以下、「外交官・公務員研修」）は、将来在日公館あるいは自国で日本に関係する職務につく可能性の高い若手外交官と公務員のための9ヶ月の集中専門日本語研修である。

研修では職務に寄与する日本語能力、とりわけ口頭運用能力の習得に重点が置かれており、その評価方法に関して開発が進められてきた。しかし、それで外交官・公務員としての口頭運用能力が適切に測られているかどうか検証はされておらず、またその能力を支える要素は何かという点についても明らかにされていなかった。

そこで平成14年度の外交官・公務員研修の最終オーラルテストを全て書き起こし、評価の妥当性を検証するとともに、初級レベルの外交官・公務員研修で目指すべき日本語口頭運用能力とはどのようなものかについて分析を行った。その結果、オーラルテストの結果が上位の者の特徴として、用いられている文法や文型は基本的なものであってもある程度まとまった専門的な内容を十分に伝える能力があることがわかり、オーラルテストの評価基準を一部改訂することにした。また、語彙の豊富さや相互交渉のあり方などその能力を支える要素についても明らかとなった。

本稿では、分析を通して得られた外交官・公務員の口頭運用能力とその評価基準について検討する。

2. 外交官・公務員研修の目標

外交官・公務員研修の研修目標は(1)日常生活と業務に必要な日本語能力、及び継続学習の基礎となる日本語能力の習得(2)日本の文化・社会への理解である。9ヶ月という限られた期間の中で、ほとんどがゼロ初級である研修参加者を対象として、日常生活と業務に必要な日本語能力習得を目指すこの研修の現実的な目標はどこに設定すればいいのだろうか。職務上の日本語ニーズについては、ニーズ調査(木谷1997)、パフォーマンスチャートの作成(上田・羽太1999)などによって明確化されてきた。また、これまでの研修実施の振り返りとして2003年度にこれまでの外交官・公務員研修全修了者に対して実施された追跡調査からは、「初級+α」つまり、日常生活に対応できる日本語運用力に加えて、職務上のニーズとして社交会話や複雑ではない業務上の場面への対応が求められていることが確認されている⁽¹⁾。そして、このニーズに対応するため、外交官・公務員研修では初級レベルの日本語運用力をつけるとともに、初級段階であっても専門性を打ち出した選択科目を導入し、各自のニーズに応じた学習を支援している⁽²⁾。

3. 外交官・公務員研修の評価の全体像

では、この研修目標をどの程度達成したかを測る日本語能力の評価はどのように行われているのだろうか。外交官・公務員研修では、研修参加者が研修を通じて学習の成果を把握し、学習目標が立てられる機能を持つ「評価システム」の開発を目指している。そのため、研修期間に行われる形成的評価以外に、研修修了時の最終評価では各科目ごとに何をどの程度できるようになったかという習得状況を英文で記述した基準表を「Evaluation Criteria(評価基準表)」として作成し、それにしたがって個人別の「Assessment(最終評価表)」を作成している(上田・羽太2004)。このAssessmentは「Overall Proficiency(総合運用能力)」「Oral Communication Competence(オーラルコミュニケーション)」「Evaluation of the Required Subject and Elective Subjects(必修科目、選択科目の評価)」から構成されている。このうち、の科目評価は各教科のテスト結果や課題提出、パフォーマンスなどからEvaluation Criteriaのどの段階に当たるかを評価されるが、別に運用能力を測るものとして各学期末にオーラルテストが行われており、最終オーラルテスト結果がのOral Communication Competenceとして評価される。の総合運用能力は帰国後に所属機関の第三者が見ても何ができるレベルなのかわかるような形で運用能力レベルを段階別に記述したものであるが、「運用能力」を重視する観点から、主にのオーラルテスト結果を軸にの科目評価を加味した形で総合的に評価が行われている。

このように、オーラルテストは研修の最終評価に関わる大きな役割を果たすものである。逆に

言えば、オーラルテストはこの専門日本語研修としての独自の目標の達成度を測るものとして機能しうるものでなければならないということである。

4. 外交官・公務員研修におけるオーラルテスト開発

4.1 外交官・公務員研修独自のオーラルテストの必要性

オーラルテストとしては、一般的にもっとも知られており、また評価基準等が公開されているものとして ACTFL OPI (Oral Proficiency Interview) がある。口頭運用力を客観的に評価するなら、OPI を採用するという可能性もあるが、外交官・公務員研修独自のオーラルテストを開発する必要性は次のような点にあった。

専門日本語研修ならではの職務上の目標の達成度を測れるものでなければならない。

9ヶ月の研修で学習した内容の範囲の達成度を測るものでなければならない。

研修参加者にとって学習の成果を把握し、継続学習のための学習目標がたてられるものでなければならない。

外交官・公務員研修では初級レベルが基本となり、専門分野の部分だけ突出していると考えられる。OPI では専門的部分は「おはこ」と言われ、そこだけ流暢に話せる可能性があるため、「おはこ」は避けるべきとされている。しかし、研修評価としてはその限られた専門性の部分こそ評価したいところである。さらに、外交官・公務員研修のオーラルテストで測っているものは単なる発話やモノログを産出する能力ではなく、相手とのインターアクションの中での口頭運用能力である。そのためインターアクションに必要な「理解」という項目を立てる必要があった⁽³⁾。

また、OPI は特定の既習範囲に関わらず運用力を測定するものであるが、このコースでは学習の成果としての達成度を測り、研修参加者へのフィードバックとなることを目指している。このようなことから、独自のオーラルテストを開発する必要性があった。

4.2 オーラルテスト開発の経緯

平成9年度より外交官・公務員研修独自のオーラルテスト評価項目として、初級レベルの総合的な運用力を支える全体の構成力（文法、語彙、談話形成、発音、流暢さ、理解）と外交官公務員としての職務上のコミュニケーションスキルとしてコミュニケーション能力（意見提出、相互交渉、情報収集、要約、社会言語能力）が立てられてきた。平成12年度まではオーラルテストは次のような手順で行われていた。

スピーチ：研修参加者が経済、教育、人間関係、社会問題、二国間関係などについて3分間の短いスピーチをする。

Q&A：スピーチについてテスターからの質問に答える。

インタビュー：テスターにスピーチとは異なるテーマで日本の社会文化について質問する。

報告：インタビューで得た情報を簡単に報告する。

そして、その評価は上記評価項目の達成度を数値スケールで表すものであった。しかし、この実施方法は限られたオーラルテストの時間が運用力というより、準備して覚えたスピーチに費やされてしまうという問題があった。また、スケール上の数値が具体的にどの程度の能力をあらわすのかなどあいまいな面が指摘された。

そこで、平成13年度からは実施方法を次のように変更した。

Q&A：テスターが研修参加者に生活や職務上の話題について質問し、答える。

ロールプレイ：社交会話や複雑ではない業務上の場面でのロールプレイを行う。

また、この変更に伴って評価項目を整理し、各項目について英語、日本語で Excellent, Successful, Good, Fair, Acceptable の5段階の記述式評価基準を作成した⁽⁴⁾。これは、評価の簡易性、客観性、信頼性を高めるとともに、研修参加者（及び所属機関）へのフィードバック、継続学習のための指標としての役割も果たすことをねらったものである。評価基準表は教師にとってはオーラルテストを実施する際の判断の指標となるとともに、評価基準表の該当段階に をつけるという形でそれ自体が評価表となることで、簡易性が高まった。また、評価基準表が項目ごとに段階別に記述式で示されていることによって研修参加者（及び所属機関）にとっても今の能力や次の目標がわかりやすくなった。また、教師間の評価基準の統一理解を図るため、事前にテープを聞いての練習や話し合いも行い、実施にあたっては、2人のテスターが各自で評価を行った上で、2人の評価をつきあわせて最終版を作成するという形で実施するようになり、客観性や信頼性が増した。

さらに、平成14年度にはそれまで2、3学期末のみ行われていたオーラルテストを1学期から行い、オーラルテストの形式に慣れるとともに、通年での伸びを見ることができるようになった⁽⁵⁾。また、オーラルテストで行われるロールプレイに対応した会話科目も新設された。

5. オーラルテストの書き起こし作成と分析

このようにオーラルテストの開発が進むにつれ、教師の経験にもとづく評価基準の記述や評価の妥当性や信頼性を検証する必要性も生じ、より明確に実態を把握したいと考えた。そこで、平成14年度研修の実際のオーラルテストを以下の手順で分析し、テストの見直しとともに分析結果を研修に還元していくことを試みた。

研修参加者のうち、既習者を除く28名の最終オーラルテスト全てを書き起こす。

従来の評価基準の各項目とレベルの記述が、研修参加者の実際のデータと一致するかどうか比較し、矛盾点があればそれを明確にする。

項目ごとに詳細な分析を行い、より適切な評価基準を作成する。

評価基準を改訂する。

書き起こし作業の過程で、教師の気づきを定期的に共有し議論を進めながら分析の観点を絞りこんでいった。また各項目の分析にあたっては、項目ごとに担当者を決め、評価基準改訂を共通目標として各自が分析し、結果について定期的なミーティングで話し合うという形で作業が進められた⁽⁶⁾。

6. 分析による知見

6.1 Q&A

6.1.a 文法と談話構成

オーラルテストの手順は先に述べたとおり、Q&A で日常生活や職務上の話題についての質問がなされる。この質問に対して「説明描写」する、あるいは「意見提出」をするということをオーラルテストで課されているタスクととらえ、それらがいかに達成されているかを実際のデータから分析してみた。このコースで目標とされる到達度と考えられる上位者 (Excellent や Successful) の結果から、特に文法面において評価記述の大幅な改訂を伴う新しい気づきが得られた。

平成 13 年度の改訂以降 15 年度まで引き継がれた各評価項目の 5 段階の記述式評価基準では、既習事項の到達度テストでもあるオーラルテストの性格もあって、既習の文法事項の習得や既習文型の豊富さに重点が置かれていた。その結果、「説明描写」「意見提出」「相互交渉」「情報収集」などの職務上求められるタスクをうまく果たした上位者であっても、文法面では高い評価が得られない場合もあった。またオーラルテストの最終評価は、各評価項目から総合的に判定して口頭運用能力の到達レベルを Excellent, Successful, Good, Fair, Acceptable の 5 段階で示すのだが、その場合に評価者の視点が「説明描写」「意見提出」「相互交渉」「情報収集」などのタスクの到達レベルよりも、厳しく判定された文法面に強く影響され低く評価されることもあった。

そこで文法の評価記述を検証するために、文型のヴァリエーション、文法の正確さ、談話形成に着目して分析を進めた。以下、例を見ながら分析の結果を確認したい⁽⁷⁾。

例 1 Q&A

T: モロッコの経済は今どうですか。

S: えと、モロッコの経済はほんとにまだ良くないですけど、だんだん良くなるでしょう。例えば、えと、モロッコの経済について、えと、たくさん輸入がありますけど、輸出の方がいい、経済にいいと思います。例えば、えと、モロッコの一番貿易相手国は EU です。はいモロッコはえと、漁業のものとか農業のもの、そして観光地は大切です。この、モロッコの政府は reform できましたから、この経済の景気はだんだん良くなります。

T: あー、だんだん良くなっていくと思います。

S: でも、まだ失業率高いと思います。13% です。そして若い人の失業率、もっと悪いと思いま

す。

T:なるほど。じゃ、失業率を低くするためには、何をしなければなりませんか。

S:いろいろな答えがありますけど、ほんとに一つだけありません。でも、モロッコのインフレ、インフレ、インフラ、infrastructure にとって、もっと投資、しなければなりません。そして、えっと、投資とか、法律の reform、すみません、このことばかりから、いろいろなことをしたら、この経済、だんだん良くなります。そして、モロッコの生活、モロッコの中に、いろいろな tradition、すみません、があります。例えば、田舎で、と、大きい町の生活は全然違います。この差はとても、経済についてとても悪いと思います。

例2 Q&A

T:イランと日本の関係が専門ですねー。 はい んー。あの、イランと日本の関係はどうなんですか。

S:そうですね。 んー、今イランの日本の関係は、あのー、だんだん年々なくなります。

T:なくなります？

S:えーいえ、よくなります、よくなります、すみません。例えば、あー毎年毎年イランと日本のこっかんオフィシャルオフィシャルは訪問する予定です、毎年、例えば去年日本の外相イランへ訪問しました。イランの大統領も3年前に日本へ訪問しました。そして、天皇？天皇と首相を訪問、会談しました。経済関係はとてもいいと思います。例えば去年イランと日本の経済、貿易は60億ドルでした。 そうですね。とても高いと思います。そうですね。でも、あー、イランのしゅっぱつは、イランのにゅう、しゅっぱつ、にゅしゅつ あ、輸出？ 輸出 輸出ですか export 輸出は大きい、とても大きい。 そうなんですか、イランから りゅうねんですが、せきゆとゆねん、げんゆ、原油と石油。 そうですね。ですから、とても高い。

T:あー、じゃあ今関係が強いですね。

S:強い。

T:歴史的にはどうなんですか。

S:あん、歴史的には大丈夫でしたが、今だんだん年々もっといいといいと思います。

以上の例では、経済や二国間関係という専門的な話題について説明や意見を述べるというタスクが求められている。例1ではモロッコの経済状況について、例2では二国間関係について述べているが、全体的な説明だけでおわることなく、例1では輸出入、主要産業、政府の改革の取り組みや、例2では要人の訪問、経済関係についても付け加えて説明している。また例1では、失業率低下への対策について意見を述べるというタスクで、対策は一つではないと前置きした上で、

インフラへの投資、法律の改正など具体的に述べている。9ヶ月という限られた期間での日本語学習であるゆえ、詳細な説明、意見述べとはなっていないが、しかしながら言語的に挫折することなく、求められたタスクには十分に対応できていると言えよう。

一方、これらの例を文法面から分析してみると、タスク達成に成功している上位者であっても、使用されている文型は初級文法の前半で学習した基本的な文型の繰り返しであることがわかる。また正確さについては、テンス・アスペクトのコントロールが十分でなかったり、助詞や活用の誤りも一部見られたが、例1の「よくなります」例2の「イランへ訪問しました」などにあるように、コミュニケーションを阻害するようないわゆるグローバルエラーにはなっていない。談話形成については、例1、2にあるように、「でも」「そして」「けど」「から」「例えば」のような接続詞や接続助詞、副詞、指示詞の使用によって、文と文の関係性が明らかとなり、結果としてまとまりのある内容が伝えられていることがわかる。つまり、初級レベルの専門日本語教育としての外交官・公務員日本語研修のオーラルテストでは、既習文法項目の非常に高い正確さや文型の豊富さは、タスク達成のための必須要素ではなく、むしろ基本的な文型を使用して、ある程度の正確さを保ちながら結束性ある段落が構成されることがタスク達成の成否を決定付けていると言える。

このような実態を踏まえて、評価基準表を表1から表2のように、文法の評価記述から文型の豊富さに関する記述をなくし正確さのレベルも実態に即したものに改訂した。また、15年度までは文法の正確さに関する評価記述を、初級文法の「前半」「後半」の習得度に程度差を付けることで表してきたが、分析の結果、初級レベルという狭い範囲の中で5段階の違いが表れた「助詞」「述語の活用」に評価ポイントを絞り込むことにした。

また、文や語による発話なのか、段落が形成されているかなどの評価項目は、「発話単位」として文法の下位項目に位置付けられてきたが、今回、このような評価項目は、まとまりある内容が伝えられているかどうかを見る上で、非常に重要な評価項目となることがあらためて明らかになったため、「談話構成」として文法とは切り離して設定することにした。

表1 旧評価基準表(訳)

	Excellent	Successful	Good	Fair	Acceptable
文法 (運用レベル、正確さ)	初級の基本文法(『みんなの日本語』)を正確に使いこなす高い運用力がある。初級後半文法(『みんなの日本語』)をある程度運用できる。	助詞や活用形などにたまに誤りがみられるものの、初級の基本文法(『みんなの日本語』)の十分な運用力がある。初級後半文法(『みんなの日本語』)をどうにか運用できる。	助詞や活用形、テンス、アスペクトに時折小さいあやまりがあるが、初級の基本文法(『みんなの日本語』)をある程度運用できる。	助詞や活用形に誤りがみられ、テンス、アスペクトは使いこなせていないが、初級の基本文法(『みんなの日本語』)を、どうにか運用することができる。	誤りが頻繁にあり、極基本的な文法しか運用できない。
(文型のバリエーション、発話単位)	さまざまな文型を駆使し、副詞、接続詞を用いて、時折、段落レベルで話すことができる。	さまざまな文型を使うことができ、基本的な副詞、接続詞を用いて、時折、短い段落をつくることができる。	発話は主に名詞、形容詞、動詞の単文である。文を羅列することもある。	発話は主に語、句単位である。名詞、形容詞、動詞の基本文型を作ることもある。	語、句単位でしか話せないが、極基本的な文を作れることもある。

表2 新評価基準表(訳)

	Excellent	Successful	Good	Fair	Acceptable
談話構成	接続詞や接続助詞などを使って、時折段落レベルで話すことができる。	基本的な接続詞や接続助詞などを使って、時折短い段落をつくることができる。	発話は主に文レベルである。文を羅列することもある。(発話が語や句単位になることもある。)	発話は主に、語、句単位であるが、文レベルで話すこともある。	語、句単位で話す。ごくたまに高頻度で使用された表現については文レベルで話すこともある。
文法	基本的な助詞や述語の活用はほとんど正確である。時折接続詞や接続助詞を使用する。(名詞修飾節も形成するが、その形式はほとんど正確である。)	基本的な助詞はたいして正確だが、述語の活用の誤りは時折ある。また時折接続詞や接続助詞を使用する。主題と述部が呼応しない場合が時折ある。(名詞修飾節も形成するが、時折誤りがある。)	基本的な助詞の使用も述語の活用もある程度できるが、時折誤りがある。限られた接続詞、接続助詞をわずかに使う。	極基本的な助詞の使用も述語の活用もある程度できるが、数に限られている。(また助詞と「です」の脱落が多い。)	基本的な助詞の使用が非常に限られている。述語の活用は高頻度で使用された極基本的なものに限られる。

6.1.b 語彙

「説明描写」「意見提出」といったタスクの達成を支えているものに、ある程度の文法的な正確さや段落を構成する結束性があると述べたが、語彙もまた少なくない部分を占めている。この点も外交官・公務員研修での特徴と言えるだろう。専門とはいえ、通常初級で扱える話題は日常的なもののみとされている中で、経済、外交といったトピックについてまとまった内容を伝えるのは難しいと考えられるが、通常初級レベルでは扱われないような語彙を使用することで、伝えようとする内容は支えられている。上記の例を見てみると、例1では、貿易相手国、漁業、農業、観光地、政府、失業率、差、投資、例2では、外相、訪問、会談といった語彙が使用されていることがわかる。いずれも文法クラスで使用しているメインテキストには出現しない語彙であるが、研修参加者はスピーチ、語彙、ビジネスタスク、外交業務の日本語といった選択科目を通してこれらの語彙を学習している。また、スピーチの原稿作成や日本人への自国紹介などの機会を通し

て自身で学習し広げた語彙なども少なくない。これらの語彙がなければ、伝えようとする内容は非常にわかりにくいものになってしまうだろう。

もちろん語彙の使用は必ずしもいつも適切というわけではなく、思い出せなくていいよんだり、間違えて言い直したりするものなどもあるが、最終的なタスク達成には影響していない。また上位者の場合、例1のように tradition, reform といった英単語を使いながらも日本語の文構造の中にうまく取り組むストラテジーを使うという特徴も見られた。

6.2 ロールプレイ

ロールプレイでは、職務上の目標達成度の測定を主眼とし、Q&A だけでは測りにくいと思われる「相互交渉」、「情報収集」、「待遇表現」を中心に評価を行った。分析の結果、会話を始めたり、展開したりしていく場合にキーとなる表現の使用が特徴としてあることがわかった。

例3 ロールプレイ

S : あーん、はいもしもし。

T1 : はい、もしもし。経済産業省です。

S : あー、インドネシア大使館の [**] と申します。

T1 : はい、いつもお世話になっております。

S : あー山本さんはいらっしゃいますか。

T1 : あ、山本ですか。あ少々お待ちください。

S : ありがとうございます。

.....

S : あー、山本さん、[**] です。

T2 : あ、[**] さんですか。いつもお世話になっております。

S : はい、お元気ですか。

T2 : はい。[**] さんも。

S : はい、私も元気。おかげさまで。{笑い}あ、山本さん、はい あーん、えとらい、来週のはい、あー月曜日の件ですが、はい あー、実は はい、あー、こっ、んー、会議、あー急に会議が、あーん、入ってしまったんです。

T2 : あ、そうなんですか。

S : はい。はい それで、はい あー、あーもし、わかる、わけありませんが、あーん、ひ、日にち、はい 日にちをか、変えていただけませんか。

T : あ、はい、わかりました。会議が入ったということですね。はい はい、あの一構いませんが、いつがよろしいですか。

- S : あーん、じゅ、十日の はい あー、火曜日はいかがですか。
- T2 : えーとですね、十日の火曜日は午前中ちょっと会議が入ってるんですけども。
- S : ーんーそうですかー。あーん、そして、あー、木曜日、は、あーいかがですか。
- T2 : すいません。木曜日は大阪に出張することになっているんですよ。
- S : そうですか。
- T2 : はい。
- S : あーんー、山本さんは はい いたよしいでしょうか。

以上は約束してあったインタビューの日時を電話で変更するという、職務上の場面を想定したロールプレイの一部である。ここでは、「～と申します」「～さんはいらっしゃいますか」「おかげさまで」(あいさつ)、「～の件ですが」(話題の提示)、「～していただけませんか」(依頼)、「～いかがですか」「よしいでしょうか」(意向の打診)といった会話を始めたり、展開したりするための表現が、適切な丁寧さを伴って使用されている。これらの表現の使用は、上位者に限らず比較的多く見られた。

研修参加者の日本語使用場面としてはスピーチなどの自国のプロモーションのほか、日本の公的機関との交渉やレセプションなどの社交場面などが想定され、外交官・公務員研修では、かなり早い時期から敬語を導入するとともに、頻度が高いと想像される業務遂行のための口頭運用能力の養成に力を入れてきた。平成14年度の研修からは、特に会話を進めていく上で鍵となる表現を会話クラスで取り上げてきた。また、研修参加者もこれらの場面自体は、日本語の使用を除けば経験している場合が多く、かつ、日本への赴任などを考えれば現実的で具体的な内容であったため、意欲的に取り組む姿勢が見られた。前述の表現の使用が浸透しているのは、こうした取り組みの成果だと考えられる。

上記のように、基本的な文型を使用して、ある程度の正確さを保ちながら結束性ある段落を構成し、専門性の高い語彙や英単語を日本語文型の中に入れ込むことで「説明描写」や「意見提出」といったタスクを達成する、またキーとなる表現を使って「相互交渉」をスムーズに展開するという実情が明らかになった。それはすなわち、初級レベルの専門日本語教育である外交官・公務員研修で目指すべき口頭運用能力の姿であるとも言える。

この結果を評価基準に反映させた訳であるが、研修参加者の現実軸に合い、またタスクを達成する力をよりよく測れるものになったのではないだろうか。

7. 今後の課題

このようにオーラルテストのコーパスを作成し、分析によって研修参加者の実際の口頭運用力をさまざまな側面から再確認することで得られた気づきは、教師にとって非常に大きいものであった。そして、教師間でもう一度研修の目指すべき目標や評価のあり方を見つめなおし、現実的な目標設定や評価について検討していくことは、研修の精度を向上させていくためにも有益であった。この結果は、今後の研修のカリキュラムに反映されるものであり、将来的には、これをもとに外交官・公務員研修の研修目標の到達に必要な文法事項、語彙の整理や絞込み、またそれを反映した教材開発などが可能になるのではないだろうか。

ただ残されている課題も少なくない。まず、教師側の要因や方法面の課題がある。分析の中では、教師の質問の仕方、ロールプレイの設定等によって研修参加者から引き出せるものが異なるなどの気づきも得られている。15年度の最終オーラルテストでは質問内容を精選したり、ロールプレイで何を引き出すかをより明確にするなど実施方法の改善も試みたが、方法面でのさらなる分析が必要であろう。また、教師の評価の一致度など信頼性に関わる部分の検討も課題として残っている。評価基準の改訂は14年度のデータの分析をもとに一部15年度のデータを補足して行ったが、限られたデータからの評価基準改訂が妥当なものであるかについては、今後実施されるオーラルテストの積み重ねの中で検証し、よりよいものを目指して検討を重ねていきたい。

〔注〕

- ⁽¹⁾ 外務省外務大臣官房文化交流部人物交流課、独立行政法人国際交流基金関西国際センターにより、2003年度に外交官日本語研修全修了生に対して行った文書調査による。
- ⁽²⁾ 各自のニーズに基づいた自律学習支援のためのパフォーマンスチャートの実践については上田・羽太（1999）、初級からの専門日本語教育の取り組みとしての選択システムのデザインと実践については上田・羽太・和泉元（2001）、羽太・和泉元・上田（2002）を参照のこと。
- ⁽³⁾ 欧州評議会の *Common European Framework of Reference for Languages(2001)* では Spoken Interaction を評価する項目のひとつとして「Understanding a native speaker interlocutor（ネイティブの対話者を理解すること）を挙げている。
- ⁽⁴⁾ 資料1（外交官公務員研修オーラルテスト評価基準表）参照。評価項目や記述内容は平成14年度のコーパス分析の結果に基づいて改訂し、15年度のオーラルテスト実施後のフィードバックに基づいた再検討を経て改訂された現段階での最終版である。英語版は Assessment として研修生（派遣元機関）にフィードバックされるものである。日本語版は教師がオーラルテスト実施時に使用するものであり、研修生用の英語版の日本語訳に教師側の評価の際の手がかりとなる特徴を（ ）で追加記述してある。
- ⁽⁵⁾ 外交官・公務員研修は3学期制をとっており、10～12月を1学期、1～3月を2学期、4～6月を3学期としている。
- ⁽⁶⁾ 書き起こし作業、分析の詳細、またデータ自体は「DLGL 研究日プロジェクト平成15年度報告」（内部資料）で報告している。尚、各項目の分析担当者は文法（亀井）、語彙（石井）、発音（15年度栗原、16年度岩澤）、理解、説明描写、意見提出（熊野）、相互交渉、情報収集、待遇表現（田中）である。各項目の分析結果は本稿では詳述しない。

⁽⁷⁾表記は、T:教師、S:研修参加者、 :あいづち、[**]:個人名を示す。

〔参考文献〕

- 上田和子・羽太園(1999)「パフォーマンス・チャートの実践 外交官・公務員日本語研修における自律学習」『日本語国際センター紀要』第10号 pp19-35
- 上田和子・羽太園・和泉元千春(2001)「専門日本語教育のプログラム・デザイン 外交官・公務員研修における選択システムの実践」『日本語国際センター紀要』第11号 pp69-87
- 上田和子・羽太園(2004)「開かれた研修」のための装置の実践」『日本語教育学会実践研究フォーラム予稿集』pp.60-63
- 外務省外務大臣官房文化交流部人物交流課、独立行政法人国際交流基金関西国際センター(2004)「外交官日本語研修 追跡調査報告書」(内部資料)
- 木谷直之(1997)「外交官の日本語使用実態調査 外交官日本語研修における「学習目的重視の日本語教育」を目指して」『日本語国際センター紀要』第7号 pp89 - 104
- 熊野七絵・亀井元子・石井容子・田中哲哉・栗原幸則(2004)「DLGL研究日プロジェクト平成15年度報告」(内部資料)
- 羽太園・和泉元千春・上田和子(2002)「初級からの専門日本語教育のカリキュラム・デザイン 外交官・公務員日本語研修における専門語彙・スピーチクラスの実践」『日本語国際センター紀要』第12号 pp115-122
- Council of Europe (2001) Common European Framework of Reference for Languages: learning, teaching, assessment, UK Cambridge University Press

初級レベルの専門日本語研修のためのオーラルテスト評価基準開発

資料 1

	Excellent	Successful	Good	Fair	Acceptable
Overall Structure					
Grammar discourse structure proficiency	Can occasionally create paragraphs making use of conjunctions.	Can occasionally make short paragraphs using basic conjunctions.	Can occasionally make sentences in sequence. Mostly makes complete sentences.	Can occasionally make a simple sentence. Mostly makes fragmentary sentences using words and phrases only.	Can occasionally use highly-frequent expressions in a simple sentence. Mostly makes fragmentary sentences using words and phrases only.
	Has a high proficiency in the use of basic particles and conjunctions. Sometimes uses conjunctions.	Has a good proficiency in the use of basic particles, but sometimes makes small mistakes in conjugation. Occasionally uses conjunctions. Sometimes sentences are not coherent.	Has a sufficient proficiency in the use of basic particles and conjunctions with some mistakes. Occasionally uses some conjunctions.	Has some proficiency in the use of very limited particles and conjunctions with some mistakes.	Can use very limited basic particles. Can conjugate very frequently used and basic adjectives, verbs, and noun phrases.
Vocabulary daily vocabulary	Can make use of daily vocabulary and expressions sufficiently.		Can make use of basic vocabulary and expressions in daily life.	Can make use of basic vocabulary and expressions about personal topics in daily life.	Can only make use of a limited range of frequently used vocabulary and expressions.
professional vocabulary	Can make use of basic vocabulary on professional topics needed to explain one's job, the basic information, tourism, economy, politics, social problems of the country and its bilateral relations with Japan.	Can make use of limited vocabulary on professional topics needed to explain one's job, the basic information, the tourism of the country and its bilateral relations with Japan.	Can make use of limited vocabulary on professional topics needed to explain one's job, the basic information and the tourism of the country.	Can only make use of a quite limited vocabulary on professional topics needed to explain one's job, the basic information and the tourism of the country.	Can only make use of a minimum vocabulary on professional topics such as diplomat, MOFA, embassy.
Pronunciation & Fluency pronunciation fluency	Has good pronunciation with accents and/or intonation problems but they are of no hindrance to communication.	Has a few unnatural sounds, accents and/or intonation problems but they are of no hindrance to communication.	Has a few problems with pronunciation, accent and/or intonation, but they are hardly a hindrance to communication.	Has some problems with pronunciation, accent and/or intonation, and they are sometimes a hindrance to communication.	Has difficulty in communication because of problems with pronunciation, accent and/or intonation.
	Can speak fluently with natural speed. There are few inappropriate pauses and hesitations.	Can speak fluently with natural speed, although with occasional hesitation and pauses.	Can occasionally speak with natural speed, but sometimes needs to hesitate and pause to find words.	Speaks slowly with frequent hesitation and pauses.	Frequently has long hesitations and pauses which often impede communication.
Comprehension	Can fully comprehend basic daily conversation and basic professional topics related to one's specialty spoken at natural speed.	Can mostly comprehend basic daily conversation and basic professional topics related to one's specialty spoken at natural speed.	Can comprehend basic daily conversation and basic professional topics related to one's specialty, if occasionally repeated or paraphrased with easy expressions.	Has comprehension of basic sentence patterns, vocabulary and expressions, if spoken slowly, repeated or paraphrased.	Has limited comprehension of only the most basic sentence patterns, vocabulary and expressions. Conversation needs to be frequently repeated and/or slowed down to ensure comprehension.
Expressions for Politeness	Has an excellent command of basic expressions for politeness appropriate for the TPO, and has little inappropriate usage of expressions.	Has a good command of basic expressions for politeness appropriate for the TPO, but has occasional inappropriate usage of expressions.	Has a good command of some basic expressions for politeness, and can perform with polite style.	Can use limited expressions for politeness frequently used, but has difficulty in maintaining polite style.	Occasionally perform in polite style, but has difficulty in usage of expressions for politeness.

Communication Skills

Explanation Description	Can explain and describe daily and relevant professional topics concretely and intelligibly.	Can explain and describe daily and relevant professional topics concretely, but has difficulty with detail.	Can give basic explanations and descriptions about daily topics and relevant professional topics.	Can give simple explanations and descriptions about daily topic.	Can talk about limited basic daily topics, but cannot explain and describe well.
Opinion Presentation	Can present own opinions such as suggestions and solutions. Can express own thoughts and feelings intelligibly with concrete examples and episodes.	Can express own thoughts and feelings with concrete examples and episodes.	Can express own thoughts and feelings in sentence form with reasons.	Can express own feelings in adjective form with simple reasons.	Can express own feelings only with very basic adjective words.
Interaction	Has excellent interaction skills. Can lead and expand the conversation smoothly with flexibility.	Has good interaction skills. Can lead and expand the conversation, but has some misunderstandings.	Can make interactive conversation.	Can manage to make interactive conversation with some help.	Has difficulty in interactive conversation.
Information Gathering	Can gather a great deal of information through the correct use of questions.	Can gather a sufficient amount of information through the correct use of questions.	Can gather some information by using some questions.	Can gather limited information through the use of basic, frequently used questions.	Can only gather very basic information through the use of basic, frequently used but incomplete questions.

資料1 (翻訳)

	E	S	G	F	A
全体の構成力					
談話構成	接続詞や接続助詞などを使って、時折段落レベルで話すことができる。	基本的な接続詞や接続助詞などを使って、時折短い段落をつくることができる。	発語は主に文レベルである。文を羅列することもある。(発語が語や句単位になることもある。)	発語は主に、語、句単位であるが、文レベルで話すこともある。	語、句単位で話す。ごくまれに高頻度で使用された表現については文レベルで話すこともある。
文法	基本的な助詞や述語の活用はほとんど正確である。時折接続詞や接続助詞を使用する。(名詞修飾節も形成するが、その形式はほとんど正確である。)	基本的な助詞はたいてい正確だが、述語の活用の誤りは時折ある。また時折接続詞や接続助詞を使用する。主題と述語が呼応しない場合が時折ある。(名詞修飾節も形成するが、時折誤りがある。)	基本的な助詞の使用も述語の活用もある程度できるが、時折誤りがある。限られた接続詞、接続助詞をわずかに使う。	極基本的な助詞の使用も述語の活用もある程度できるが、数が限られている。(また助詞「です」の脱落が多い。)	基本的な助詞の使用が非常に限られている。述語の活用は高頻度で使用された極基本的なものに限られる。
語彙 (日常語彙)	日常の語彙、表現を十分使うことができる。		日常の基本語彙、表現を使うことができる。(時折、言葉の思い出しなかつたり、言い直したりする。)	自分に関連する(動詞、形容詞15程度の)、日常の基本語彙、表現を使うことができる。	(動詞、形容詞それぞれ10程度の)限られた使用頻度の高い語彙のみ使うことができる。(東京へ行くこうレベル+名詞、その他)
(職務上語彙)	自分の専門に関わる職務上の話題について、仕事や国の基本情報、観光、二国間関係、政治経済、社会問題などの基本的な語彙を使うことができる。	自分の専門に関わる職務上の話題について、仕事、国の基本情報や観光、二国間関係などについての限られた語彙を使うことができる。	自分の専門に関わる話題について、仕事や国の基本情報、観光などについて限られた語彙のみ使うことができる。	自分の専門に関わる話題について、仕事や国の基本情報、観光などについて極限られた語彙のみ使うことができる。	自分の専門に関わる話題について、外交官、外務省、大使館などの最低限必要な(5程度の)語彙のみ使うことができる。
発音と流暢さ (発音)	発音やアクセント、イントネーションに多少不自然さはあるが、意思疎通に支障はない。	発音やアクセント、イントネーションに多少の問題はあるが、意思疎通に殆ど支障はない。	発音やアクセント、イントネーションに多少の問題はあるが、意思疎通に殆ど支障はない。	発音やアクセント、イントネーションに問題があり、時々意思疎通に支障をきたす。	発音やアクセント、イントネーションに問題が多く、意思疎通するのが難しい。
(流暢さ)	自然なスピードでなめらかに話すことができる。不適切ないよどみやポーズはほとんどない。	自然なスピードでなめらかに話すことができるが、時折言いよどんだりポーズが入ったりする。	自然なスピードで話す部分もあるが、時々言葉を探しているよどんだり、ポーズが入ったりしてしまう。	スピードは遅く、不自然な言いよどみ、ポーズが多い。	長い言いよどみやポーズが続き、しばしば会話を阻害する。
理解	自然なスピードの基本的な日常会話、自分の専門に関わる基本的な職務上の話題を十分に理解できる。	自然なスピードの基本的な日常会話、自分の専門に関わる基本的な職務上の話題をだいたい理解できる。	基本的な日常会話、自分の専門に関わる基本的な職務上の話題を時々繰り返したり、簡単な表現に言い換えたりしてもらえば、理解できる。	基本的な文型、語彙、表現を、速度を遅くしたり、繰り返したり、簡単な表現や言葉に言い換えたりしてもらえば理解できる。(時々誤解やズレた答えがある。専門的な話題はほとんど理解できない)	極基本的な文型、語彙、表現のみでどうに理解できる。理解するためには会話をやったり、何度も繰り返す必要がある。(質問が文として聞き取れず、頻繁に誤解し、ズレた答えをする)
待遇表現	多少の間違いや不適切さはあるが、相手や状況に応じて、適切に基本的な待遇表現を使いこなせる	適切さに欠けることもあるが、相手や状況に応じて基本的な待遇表現をある程度使うことができる	限られた基本的な待遇表現は使うことができ、丁寧体を維持できる。	決まり文句的な待遇表現のみ使うことができるが、丁寧体の文末の維持はむずかしい。	丁寧体で発語することもあるが、待遇表現の運用は難しい。

コミュニケーション能力

説明・描写	日常的な話題、自分に関連する職務上の話題について具体的にわかりやすく説明・描写ができる。	日常的な話題、自分に関連する職務上の話題について具体的に説明・描写ができるが、詳細になると伝わりにくいことがある。	日常的な話題や自分に関連する職務上の話題について基本的な説明や描写をすることができる。	日常的な話題について簡単な説明や描写をすることができる。	日常的でよく聞かれる極限られた話題について話すことが、説明や描写はできない。
意見提出	提案や解決策などの意見を述べることができる。自分の考えや気持ちを具体的な例やエピソードを提示しながらわかりやすく述べることができる。	自分の考えや気持ちを具体的な例やエピソードを提示しながら述べる述べることができる。	自分の考えや気持ちを理由を示し、文レベル(と想)で表すことができる。	自分の気持ちを簡単な理由とともに、形容詞レベルで表すことができる。	自分の気持ちを極基本的な形容詞単語でのみ表すことができる。
相互交渉	優れた相互交渉能力がある。スムーズに会話を展開し、臨機応変に対応できる。	多少、誤りや誤解もあるが、会話を展開して、相互交渉ができる。	やりとりしながら会話ができる。	相手からの助けをかりれば、どうにか会話ができる。	主体的に会話することが難しい。
情報収集	適切な質問を展開してさまざまな情報を収集することができる。	適切に質問し、十分に情報を収集することができる。	いくつか質問して必要な情報を収集することができる。	よく使う簡単な質問文で、どうにか情報を集めることができる。	よく使う簡単な質問文でも不完全で、極限られた情報しか集められない。